

本科 1 期 4 月度

解答

Z会東大進学教室

高 2 東大世界史



1章 古代オリエント

問題

【1】

解答

- 1 ジググラト 2 サルゴン1世 3 アムル 4 復讐法
5 インド=ヨーロッパ 6 ヘロドトス 7 メンフィス 8 クフ 9 アトン
10 オシリス

解説

1. 「神の住居とされる7層の塔」という部分からジググラトが正解。『旧約聖書』の「バベルの塔」伝説は、これから起こったとされている。

2. サルゴン1世は前24世紀頃のアッカド人の王で、メソポタミア最初の都市国家を樹立した。

3・4. アムル人はセム語系の遊牧民で、古バビロニア王国を建国した。前18世紀頃に全メソポタミアを統一したハンムラビ王は、シュメール法を継承し成文化したハンムラビ法典を制定した。ハンムラビ法典は、「目には目を、歯には歯を」という言葉で知られる同害復讐法に基づくが、当事者間の身分差によって刑罰にも差が生じていた。

5. ヒッタイトはインド=ヨーロッパ語系の民族で、小アジアのハットゥシャ（現在のボアズキョイ）を都として建国した。鉄器を最初に使用し、前14世紀に最盛期を迎えたが、「海の民」の侵入によって滅亡した。

6. 「エジプトはナイルのたまもの」とは、ギリシア人ヘロドトス（前485頃～前425頃）の『歴史』に出てくる有名な一句である。ヘロドトスは「歴史の父」と呼ばれ、著書『歴史』ではペルシア戦争を物語的に叙述した。

7. エジプトは古王国時代にメンフィスに都が置かれ、中王国・新王国時代には、アメンホテプ4世のアマルナ遷都の時期を除いて、主にテーベに都が置かれた。

8. 前27世紀頃の王であるクフ王は、ギザに最大のピラミッドを建設した。ギザにはクフ王のほかに、カフラー王、メンカウラー王のピラミッドやスフィンクスが建てられた。

9. 前14世紀、第18王朝の王アメンホテプ4世は、神官の政治介入を排除するため、アモン神に代わり唯一神であるアトン神への信仰を強制した。自らをイクナートン（アトンに愛される者）と改称し、都をテル=エル=アマルナに遷した。アマルナ美術と呼ばれる写実的な美術の発達も見られたが、アメンホテプ4世の死後はテル=エル=アマルナは破壊され、都はメンフィスへ戻された。

10. 神オシリスは弟セトに妬まれ、殺害され、死骸をバラバラにされて投げ捨てられたが、妹であり妻でもあるイシスがその死骸を集め直してミイラとし、復活させた。復活したオシリスは冥界の王となり、最後の審判を司る者となった。「死者の書」には最後の審判の場でのオシリスが描かれている。

【2】

解答

設問 1 ウ 設問 2 イ 設問 3 エ 設問 4 イ 設問 5 エ 設問 6 ウ
設問 7 エ 設問 8 イ 設問 9 ウ

解説

設問 1. ウが誤りである。カッシートはエラム人によって滅ぼされた。エラム人はイラン高原南西部を支配したが、民族系統は不明である。

設問 2. アッシリアは前 8 世紀末から、ティグリス川中流のニネヴェを首都とした。アッシュル＝バニパル王の時代には大図書館も造営された。

設問 3. アッシリア滅亡後に分立した 4 王国とは、リディア・メディア・新バビロニア王国(カルデア)・エジプトである。ミタンニは前 16 世紀にメソポタミア北部からシリアを支配したが、前 14 世紀にヒッタイトの攻撃を受けて衰退し、アッシリアに服属した。

設問 4. イが誤りである。エジプトに移住したユダヤ人に対して圧政を行ったのは新王国である。ユダヤ人はモーセに導かれてエジプトを脱出し(「出エジプト」)、パレスチナに定着した。

設問 5. エが誤りである。ダレイオス 1 世の事績を刻んだベヒストゥーン碑文は、イギリスのローリンソンによって解読された。フランスのシャンポリオンが解読したのは、ロゼッタ＝ストーンの神聖文字である。

設問 6. ウが誤りである。アテネのテミストクレスは、サラミスの海戦でペルシア軍を破った。テルモピレーの戦いでペルシア軍を阻止し、自らも全滅したのは、スパルタのレオニダスである。

設問 7. エが誤りである。ガンダーラ美術が最盛期を迎えたのは、後 1～3 世紀に西北インドを支配したクシャーナ朝期のことである。ガンダーラ美術の下で、ヘレニズム彫刻の影響を受けたギリシア風の仏像が制作された。

設問 8. ササン朝の王シャープール 1 世(位 241～72)は、ローマの軍人皇帝ヴァレリアヌス(位 253～60)を捕虜とした。東方ではクシャーナ朝を攻撃し、衰退させた。

設問 9. ウが誤りである。マニ教はゾロアスター教にキリスト教・仏教の要素を融合させて成立した宗教で、ササン朝ではシャープール 1 世の時代を除いて弾圧されたが、その後ヨーロッパや中央アジア、中国に伝わった。南フランスでマニ教の影響を受けたキリスト教異端派は、アルビジョワ派である。

2章 古代ギリシア

問題

【1】

解答

(1) ② (2) ③ (3) ③ (4) ④ (5) ④ (6) ④

解説

- (1). シノイクスモスとは「集住」を意味し、前8世紀から貴族を中心にポリス形成が進んだ。
- (2). 問題文の『労働と日々』からヘシオドスとなる。労働を軽視したギリシアにおいて、その尊さを謳った農民詩人。彼の作品として神々の系譜を記した『神統記』も覚えておくこと。
- (3). 武器の自弁が原則のギリシアでは、当初は裕福な貴族が重装騎兵として国防に当たり、政治を独占した。だが、植民市との交易などで商工業が発展し、一部の富裕市民が出現すると、彼らは武器を購入して重装歩兵として参戦し、貴族の政治独占に反対して参政権を要求するようになった。
- (4). スパルタの伝説的立法者がリュクルゴスで、スパルタの支配層であるドーリア人の没落防止目的に、国政や生活規範を定めたとされる。
- (5). 僭主とは非合法な手段で権力を握った独裁者で、多くのポリスに出現した。アテネのペイシストラトスは前6世紀後半に僭主となり、貴族の土地を没収して貧民に分配し中小農民の育成に努めるなどしたが、息子のヒッピアスは暴政に走った。
- (6). 18歳以上の成年男子市民全員で構成された民会はアテネの政治の最高機関で、民会では直接民主政が行われた。

【2】

解答

問1 a クレタ b ミケーネ c 海の民 d アゴラ

問2 アルコン 問3 ドラコン 問4 (1) 僭主 (2) ペイシストラトス

問5 代議制ではなく、成年男子市民全員が民会に参加する直接民主政であった。成年男子市民の間では政治的平等が徹底されたが、奴隷や女性には参政権は認められなかった。

(77字)

解説

問1. a～c. 前2000～前1400年頃には、クレタ島のクノッソスを中心として、クレタ文明が栄えた。前20世紀以降、ギリシア人の第1波であるアカイア人がギリシアに南下した。アカイア人は前16世紀頃にはミケーネ文明を築き、前1400年頃にはクレタの王権も倒した。しかし、ギリシア人の第2波であるドーリア人や、「海の民」と称される民族系統不明の民族の侵攻、および気候変動などによってミケーネ文明は破壊され、以後前12～前8世紀のギリシアは、暗黒時代と呼ばれる混乱期を迎えた。

d. アゴラは中心部にある城山（アクロポリス）のふもとにある中央広場で、交易・裁判などが行われ、ポリスの政治・経済活動の中心であった。

問2. 前8世紀半ば以降、アテネは王政から貴族政へ移行し、貴族から選ばれた9人のアルコン（執政官）がポリスを統治した。

問3. 重装歩兵の要員として活躍し、軍事的に重要な役割を担うようになった平民は、貴族による政権独占に不満を抱いた。こうした中でドラコンは従来の慣習法を成文化し、貴族による法の独占を破った。

問4. 民衆の不満を利用し、その支持を得て非合法的に政権を握った独裁者を僭主という。前561年、平民の支持を得て僭主となったペイシストラトスは、土地を再分配して中小農民を保護育成し、アテネの整備と美化に努めた。

問5. 前443～前429年のペリクレスによる統治の下で、アテネの民主政治は完成に至ったとされる。今日の代議制（議会制民主主義）ではなく、政治の最高機関となる民会に成年男子市民全員が参加する直接民主政であり、一部の例外を除いてほとんどの官職が全市民の中から抽選で選ばれた。こうしたアテネの民主政治は他のポリスにも波及した。

しかし、成年男子市民の間で政治的平等が徹底されたのに対して、女性・在留外人・奴隷には参政権が認められなかった。さらにペリクレスの時代には、アテネ市民権は両親ともアテネ出身の18歳以上の男性に限定された。

3章 古代ローマ

問題

【1】

解答

- (1) ④ (2) ② (3) ③ (4) ④

解説

(1). ローマでは当初、コンスル（執政官）2名は両方貴族が就任したが、リキニウス・セクスティウス法で、内1人は平民から選出することが定められた。またこの法では公有地占有の制限も定められた。

(2). 問題文にある「平民の上層部と旧来の貴族が社会的に融合し」とは、両者が政治的連携や婚姻関係で結びついたことを意味する。

(3). 問題文の「紀元前3世紀前半」、ローマが「イタリア外の地中海沿岸諸地域へ進出を開始」という部分から、前264年にローマとフェニキア人が建てたカルタゴとの間で開戦したポエニ戦争と判断できる。

(4). やや難問である。「アテネなどのギリシアのポリスとは異なって」とある部分がヒントとなる。アテネは民主政を完成させたペリクレスの時代にアテネ市民権を制限した。従来は父親がアテネ市民であれば、子供にもアテネ市民権が付与されたが、ペリクレス時代に両親がアテネ市民である者の子供のみをアテネ市民とすることとなる。これに対してローマは同盟市戦争の後にイタリア半島内の自由民にローマ市民権が与えられ、後212年にはカラカラ帝が帝国内全自由民にローマ市民権を拡大した。よって解答は④のローマ市民となる。

[2]

解答

問1 3 問2 1 問3 4 問4 0 問5 2 問6 1 問7 1
問8 3 問9 3 問10 1

解説

問1. 「ローマ帝国の領土は」「最大となり」からトラヤヌス帝と判明。彼はドナウ川以北のダキア（現在のルーマニア）を領有し、東方ではパルティアからメソポタミア地域も奪った。

問2. ヴィンドボナとは現在のウィーンである。ロンドンはロンディニウムと呼ばれた。

問3. エトルリア人は民族系統不明の民族で、エトルリア人の王が前7世紀末にローマを支配した。エトルリア人は土木・建築の技術に優れ、ローマにこれらの技術を伝えたとされる。

問4. 選択肢3にある「平民会の議決が元老院の承認なしに国法」とできるようになるのは前287年のホルテンシウス法によってである。

問5. カエサルはガリア遠征で名声を高めた平民派の政治家で、その遠征記録であり、ゲルマン人の社会を知る史料としても重要な『ガリア戦記』を著した。ポンペイウスとの対立に勝利し、独裁官に就任し属州改革やユリウス暦の採用を行うが、共和派に暗殺された。

問6. 前91～前88年の同盟市戦争を契機にイタリア半島にローマ市民権は拡大され、帝政期には地中海周辺地域にも広まる。最終的には後212年にカラカラ帝のアントニヌス勅令で帝国内の全自由民にローマ市民権が拡大された。

問7. 選択肢1が誤り。マニ教はササン朝第2代のシャープール1世時代にマニがゾロアスター教・キリスト教・仏教を融合して興したものであり、ササン朝ではシャープール1世の時代を除いて弾圧された。選択肢2にある「ローマ皇帝」とは、軍人皇帝の1人であるウァレリアヌス帝のこと。

問8. ネロ帝による迫害は64年、ディオクレティアヌス帝による大迫害は303年に行われた。ペテロは初代教皇に比定される人物であり、パウロは「異邦人の使徒」と呼ばれ、ヘブライ人（ユダヤ人）以外へのキリスト教布教で有名。

問9. ニケーア公会議ではアタナシウスの説が正統とされ、のちに三位一体説として確立する。この公会議はアリウス派が異端とされ、アリウス派はゲルマン人へ広まっていった。ネストリウス派は431年のエフェソス公会議で異端とされ、ペルシアから遠く中国まで東方への伝道を行うこととなった。

問10. 選択肢1中の「アラブ人」が誤りで、正しくはゲルマン人。ローマ帝国と境を接したゲルマン人は、ローマ帝国後期には帝国領内へ侵入を繰り返した。その一方で、ゲルマン人の中にはローマ帝国の傭兵・下級官吏・コロヌスとしてローマ帝国内に平和的に移るものもいた。



会員番号	
------	--

氏名	
----	--